

会員みなさま

JSPEHSS 副会長の山口 香です。

日本体育大学におきまして第 75 回の学会大会が開催されました（8 月 27 日～29 日）。厳しい暑さの中ではありましたが、多くの方の参加をいただき、滞りなくすべての内容を実施することができました。主管校の先生方、スタッフ、関係者の皆さまには、計画、準備、実施に至るまで、大変なご尽力をいただきましたことに心より感謝と御礼を申し上げます。

來田会長からは、学会開催中にオープニングセレモニーを含め、様々な機会を捉えて以下の 2 点について会員への周知がありました。一点目は、中央教育審議会の教員養成部会は、教員養成課程で必修となっている憲法や体育などの教養科目について廃止を検討しているということです。二点目は、科研費の申請区分においてスポーツ生理学・スポーツ生化学の語を小区分「スポーツ科学」から削除するという提案についてです。コロナ以降、人が集い、情報を共有し、議論を重ねる機会が減ったように感じます。そのことが、身の回りで起きている大きな変化に気がつかないままに進んでいっていることがあるような気がしています。そのような意味では、学会大会が研究発表のみならず、関係者の皆様が交友を深める機会になったのではないかと思います。

また、懸案であった第 78 回大会の主管校について進展がありました。候補としてあがっていた中から、引き受けに当たって具体的な検討に入る段階になってきました。皆様へのご報告には今少しお時間を頂戴することになりますが、近いうちに良いご報告ができるのではないかと考えております。回を追うごとに主管校の選定が難しくなっている実感があります。まだ少し早いと思われるかとは思いますが、ぜひ、79 回大会、80 回大会についても候補校がありましたら情報をお寄せいただけますようお願いいたします。

8 月 19 日開催された 2025・2026 年度第 3 回理事会が開催されました。

議事次第は以下の URL からご覧いただくことができます。

<https://taiiku-gakkai.or.jp/wp-content/uploads/2025/09/jspe20250819.pdf>

審議・報告事項の中からいくつかを理事会通信としてお届けします。

（1）第 76 回大会 大会テーマ並びにシンポジウム案について（審議事項）

第 76 回大会 大会テーマとして「地域変革へのスポーツ実践と科学の挑戦—ウェルビーイング実現に向けた「集まる・つながる」共生社会を目指して—」が提案され、了承されました。また、大会における本部企画シンポジウム等の企画提案について議論されました。企画委員会で立案するシンポジウムについては、開催地北海道における地域変革へのスポーツ実践と科学の貢献の取り組みを、より具体的に話し合うことを意図して、スポーツツーリズムの発展と功罪、冬季スポーツのアスリートサポート、スタジアム・コミュニティによる地域開発といった提案の柱を設定し、現状のタイトル案として「地域変革へのスポーツ実践と科学の貢献—ツーリズム・パフォーマンス・コミュニティの実践研究からのアプローチ—」

等が提案されており、今後、更なる具体化を進める予定とのことでした。

（2）学会大会（報告事項）

主管校の日本体育大学では、1 週間後に迫った第 75 回大会の準備状況、昨年度の教訓を経て台風が発生した場合の対応にも備えていただいているなどの報告がありました。また、第 76 回大会を開催していただく北翔大学からは、学会の準備状況と合わせて北海道の魅力を伝えるビデオを披露していただきました。

以上